



JAPIC NEWS

<http://www.japic.or.jp>

	JAPIC		
	JAPIC		
	JAPIC		
14	JAPIC		11
JAPIC		2002	13
			13
90			14
			15
JAPICDOC	JAPICDOC	SOCIE	17
ADVICE		2001	18
	DB 2002	4	19
	No.1 43		20
			22
			23



会長に就任して

JAPIC 会長

上 田 慶 二

去る4月1日の日本医薬情報センター理事会におきまして、当センターの第六代会長に選出されましたので、ここに抱負の一端を述べさせていただきます。

科学の発展とともに人々は進歩した医学の恩恵をうけ、より多くの人々が明るい社会において健康を増進することができるよう図られておりますが、近年高齢化社会の出現と生活習慣病の増加など疾患構造の変化とともに国民医療費は急速に増大し、また薬害や医療事故の発生も跡を絶たないのも現実であります。

医療に携わる我々は、その現状を深く認識し、医薬品の適正使用と医療の安全性確保に努めるとともに、医療事故の一因ともなり得る医療情報を周知することの不徹底を解消するための対策を至急に講ずる必要があります。これらの重大な目標に対して医薬品情報を収集、整理、加工し、必要とされる関係方面へ迅速、かつ的確に伝達することを使命とする日本医薬情報センターの役割はきわめて重大であります。

1. 医療情報のあり方

医学の進歩とともに新しい医薬品も増加しておりますが、それらが医療に貢献するにはその適切な使用が前提条件であり、そのため適切な情報が提供されることが必須であることが広く認識されております。厚生労働省は「医薬品情報提供のあり方に関する懇談会」を設置して協議し、平成13年9月に報告書を発表しております。そのなかで今後の具体的な方策として医療関係者向けの医療情報の効率的・効果的な提供のあり方や患者への情報提供の充実などの提言を示しております。近年医療情報量が増大し、その意義も変遷しております。ことに医療情報の伝達の対象として、患者さんと国民を含めて考慮することが強調されていることは注目すべきことの一つであります。

IT社会の到来とともに増大を続ける医療情報についても重要な情報をその中から選別する能力が要求されています。しかしきわめて多忙な医療従事者が洪水のごとく殺到する個々の情報の重要性を的確に判断するのはきわめて困難でありますので、当センターがその役割を担い、整理、加工した情報を速やかに伝達することはきわめて意義のあることであります。また医薬品開発がグローバル化している現在、医療従事者には国内のみならず

worldwide の情報を検索することが要求されております。当センターが会員の皆様に代わりそれらの業務を行なうことも重要であると信じております。

2．日本医薬情報センターの事業のあり方

当センターは、1972 年に創設され、本年までの 30 年の歴史において慎重な検討を重ね、当センターに課せられた使命を果たすべく種々の事業を展開して参りました。当センターは常に医療情報社会の core としての役割を認識し、情報伝達の旗手としての役割を果たすべく努力して参りました。

当センターの事業はいずれも意義のある事業であると信じておりますが、今後とも収集した情報にさらに付加価値を付与し、常に custom-oriented であり、読者である会員の皆様には reader-friendly な情報の提供を続けたいと念じております。

平成 14 年度においても従来よりの Q サービス、文献データ提供などの事業をさらに増強して継続しますが、特筆すべき事業としては、医療機関や調剤薬局などの医療の現場と当センターを結んで医薬品情報を的確、機敏にご利用頂き、医療の質の確保を目的とするコンピュータシステムであります"PharmaAssist"の完成を図り、利用される施設への提供を図る事業を挙げることができましょう。その目的達成のため当センターは総力をあげる決意であります。

平成 14 年度にはその他のいくつかの新規事業にも着手することを計画しておりますが、そのひとつとして「JAPIC 総合的医薬品安全情報システム」の構築を企画しており、ご期待に添いたいと存じます。そのなかでも医薬品の添付文書などを迅速に提供することを目的とした「手のひらサイズの添付文書情報提供システム」の構築も医療従事者に役立つ有力な事業になり得ると信じております。

3．おわりに

私は会長就任後の日も浅く、まだ的確な抱負を述べる資格にも乏しいために十分に意を尽くせない一文となりましたことをお詫び申し上げます。今後とも変わらずご鞭撻とご支援を賜りますようお願い申し上げます。





理事長に就任して

JAPIC 理事長
首 藤 紘 一

このたび、ここ日本医薬情報センターの理事長に就任することとなりました。私はこれまで数年間、医薬品医療機器審査センター以来、国立医薬品食品衛生研究所において、医薬品の安全や適正使用ということにかかわってはきましたが、これらに特化した事業に直接に関与するとは思っておりませんでした。医薬品製造と使用において、また、行政においても、ますます重要性を増している医薬情報の分野に微力を尽くしたいと思っています。まだ、左右が理解できていないところですので、日頃から考えていることを記して挨拶に代えたいと思います。

とにかく、あらゆる情報が激増しています。昔は消失してしまったであろう情報もはつきりと確かに残る時代ですので、情報数は積算されて手に負えない数になっているわけです。そこで、この日本医薬情報センターも存在する意義がでてくるわけですが、ただ、情報を集め、加工して、使いやすくするというだけでよいのだろうか。必要とすることは、意味のある確かな情報が欲しいということなのです。人によって欲しい情報が違う。無関係な情報はいらぬし、質の悪いもの、ノイズでしかないものは見たくもない。また、情報を完璧に集めるということは、できたとしてもエネルギー消費が大きく効率が悪い。情報をどう利用するかは使う人の問題だとはいわずに、意味のある情報の提供という難しい問題には、この日本医薬情報センターは、日頃から頭を悩まして、情報を欲する人の身になって、情報提供のあり方と方策を考えていく必要がある。

少し、話がずれるのだが、医薬品でも、化粧品でも、食品でも、消費者により多くの情報を提供するという方向に進んでいる。添付文書、全成分表示、アレルギー成分表示などいずれも詳細になってきている。しかし、本当に役に立つのか疑問な場合がある。読み切るには忍耐力を要し、虫眼鏡を必要とするものもある。単にアリバイとしての表示となっている感すらある。ここでも情報の選別と重み付けが大事である。

忘れてはいけないことは、情報は高価であること。とくに安全に関わることはなにも起こらないことが一番いいことなので、成果が目に見えない。そのため、安全性を確保するための情報はとくに高いと感じるかもしれない。しかし、いったん安全が崩れたときの損

失を考えれば、安全性情報には常日ごろお金をかけておかねばならないのである。

クスリはリスクといわれる。しかし、リスクという概念は日本語にないことから、リスクについて正確な理解がなかなか得られていない。安全性が高いということはリスクが低いということではない。安全な医薬品はないということを、専門家も一般の人も、もっともっと強く認識すべきであろう。さすがに「安全な医薬」という言葉こそあまり使われなくなったが、「安全性が高い」という言葉が使われ、それが「安全」ととられる。安全という言葉は慎重に使いたい。



《最近の話題》

緊急安全性情報

JAPIC 医薬文献部門部長 中村陽子

4月16日に医薬品の緊急安全性情報が出され、テーマを急遽、緊急安全性情報に変更することにした。

緊急安全性情報「抗精神病薬 ジブレキサ錠（オランザピン）投与中の血糖値上昇による糖尿病性ケトアシドーシス及び糖尿病性昏睡について」を厚生労働省と日本イーライリリーが、共同記者会見を開いて公表したのは4月16日午後である。緊急安全性情報発出となると、厚生労働省も会社もとても緊張するものである。なかなか、準備万端、予定通り終了することは難しい。今回のケースでは、A社が早々と4月16日の夕刊一面に「精神病薬新薬、重い副作用 - 昏睡12人うち2人死亡、厚労省調査へ」との見出しで報じた。午後遅くの発表では、新聞は翌朝になるのが通常である。発表者側は、マスメディアで報道されるのは自ら発表した後であると想定して、対応を考えている。例えば、A紙の夕刊の見出しは、新聞の見出しとして消費者が注目する内容ではあるが、精神病患者に対しては不用意に不安を与える内容である。正確な情報を迅速に医師や患者にも提供する必要がある。当然、患者や医療機関からの問い合わせが、会社あてに集中することになるが、しかし、A紙の報道が早すぎたために、社内や末端のMRに対して社内情報を徹底させることができず、担当者ですら正確な情報が分からないので、混乱に拍車をかけてしまう結果となってしまった。このような想定外のことがらは、危機管理上、結構発生しているものである。

厚生労働省のホームページに報道発表資料が掲載されたのに JAPIC が気づいたのは午後5時ころであり、JAPIC Daily Mail の緊急発信を行った。同日夜、テレビなどが報道し、翌日の朝刊で、新聞報道がなされている。見出しは、A紙「精神病薬 2人死亡、医療機関に注意喚起、輸入販売元が対応策」、Y紙「抗精神病薬、2人副作用死、英から輸入昨年発売、血糖値上昇で意識障害」、M紙「精神疾患新薬「オランザピン」に副作用、こん睡症状、3人死亡」である。発表を受けての記事であるので、その内容も統一されている。日本薬剤師会から薬局にはファックスも流された。医薬品機構の情報提供システムに掲載された「緊急安全性情報」本文も、JAPIC Daily Mail で、17日午前中に紹介した。

危機管理対応においては、リスクの内容を評価する時間と、リスクから生じる危険を避けるための判断に要する時間が、奪われている。「情報」は、広辞苑によると(1)あることからについてのしらせ。「極秘 - 」(2)判断を下したり行動を起こしたりするために必要な知識。「 - が不足している」という二つの意味を持つ。

安全対策やリスク管理が必要とされる社会組織の中では、(2)の「判断を下したり行動を起こしたりするために必要な知識」がより重要である。組織が行動を起こすときは、判断に必要な情報を収集して、関係者が集まって会議を開き、合意を得た中で決定を文書化するのが手順である。社運がかかるような重要な決定であればあるほど、ボトムアップスタイルの決裁文書を作り、手続きを経て慎重に行われている。そして、トップが決定した以上、決定は簡単に覆すべきではないとされてきた。朝令暮改は、朝命令を下して夕方それを改めることであり、その言葉の意味は、命令や方針が絶えず改められてあてにならないことである。

決定に関する社会の意識は、情報化社会の進展とともに大きく変わってきている。命令や方針がコロコロと変えられることはもちろん好ましくないが、不適切な決定をした場合には、即刻修正することも求められている。朝令暮改の時代には、まだ朝から暮れまで半日の余裕があり、外国に問い合わせたとしても、相談して組織の意志を明確にする十分な時間があつた。

しかし、今は違う。阪神大震災直後には、組織間の情報交換がほとんど役に立たず、マスメディアや個人の携帯電話が生々しい状況を伝え、危機管理に弱い日本の現状を明らかにした。コンピュータ 2000 年問題は、2000 年を迎えた時点で、そのリスクは、24 時間をかけて地球を一周した。日本が危機を迎えた状態では、アメリカはまだ危機を迎えていなかった。アメリカが危機に差し掛かった時点で、日本は危機を脱したことが確認できたからパニックは避けられた。ノスカールの場合には、FDA 当局と会社とのインターネットのやり取りの一部がアメリカのマスコミで取り上げられ、日本も大きな影響を受けた。情報化社会の進展が、情報を総合的に判断して組織の決定を下すという時間的余裕を奪ってしまっている。同時中継で、決定を覆さざるを得ないような重大な情報がマスメディアやインターネットを通じて飛び込む時代である。

このように、情報化社会の中の危機管理には、責任者の瞬間的判断や行動が重要である。しかし、一方において、瞬間的判断は大きなリスクを伴うものであり、この場合には、決定自体がリスクを生じさせることとなる。そこで、往々にしてリスク情報を消去したくなる。しかしながら、リスクが消えて無くなってしまいうわけではないため、処理をしないと決定した瞬間に、未来においてよりリスクは大きな危険となり自らに降りかかってくるという新たなリスクを引き受けるという決定を下したことになるわけである。リスクと時間のパラドックスであり、具体的なマニュアルはない。緊急安全性情報を決断するのは、当事者にとっては大きな危機である。しかし、当事者が危機を乗り越えたことにより、より、安心して医薬品を使用できるという社会的状況が作り出されていくことができることに繋がっていくと考えられる。より一層の安全を求める方策を決定して行動するしかないのかもしれない。情報社会は、リスク増幅社会でもある。

「平成 14 年度 JAPIC ユーザ会」開催のご案内

例年 5 月に東京において「業務担当者懇談会」を開催し、業務担当者の方へ先ず年度計画やサービス内容の説明をさせていただき、合わせて会員のみなさまから直接ご質問・ご要望・ご意見を伺う機会としてまいりました。

平成 14 年度から会長、理事長が交代いたしましたので、新体制のもと、新しい感覚で会員のみなさまへサービスを展開してまいりたいと考え、「平成 14 年度 JAPIC ユーザ会」と名称・内容も改め、別記のとおり東京、大阪で開催することになりました。「各種サービス概要説明」では新サービスを中心にサービスの概要及び利用方法について説明させていただきます。

業務担当者のもとより、サービスをご利用の方にもご都合のよい会場へご参加いただき、今後、JAPIC サービスの有効活用をしていただければ幸いです。

是非、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

なお、ご参加いただける場合には、申込書にご記入になり、5 月 20 日（月）までに業務部宛、FAX（03-5466-1814）でご返送ください。

日時・場所： **平成 14 年 5 月 28 日（火） 東京 - 長井記念ホール（B2）**

平成 14 年 6 月 6 日（木） 大阪 - 薬業年金会館（601）

両日とも 13：30 ~ 16：30

会 場： 東京 - 長井記念ホール（JR/私鉄/営団地下鉄 渋谷駅から徒歩 8 分）
東京都渋谷区渋谷 2-12-15 長井記念館 ; 03-3406-3326

大阪 - 薬業年金会館（地下鉄谷町線 谷町六丁目駅から徒歩 0 分）
大阪府中央区谷町 6-5-4 ; 06-6768-4451

プログラム：

13：30～13：40	主催者挨拶（理事長 首藤 統一）
13：40～14：00	平成 14 年度事業計画概要説明（常務理事 松本 和男）
14：00～16：20	JAPIC 各種サービス概要説明（担当者） ・複写サービスと著作権、所蔵資料、学会情報収集、図書館利用 状況など ・JAPIC Daily Mail、JAPIC Q-サービス、JAPICDOC など ・添付文書に関する各種サービス (15：00～15：20 コーヒーブレイク)
16：20～16：30	質疑応答
16：30	閉会

なお、16:30～18:00 別室で、参加者と JAPIC 役職員の気軽な懇親会を設けております。是非、こちらへもご参加ください。

（業務部 TEL.03-5466-1812）



平成 年 月 日

(財) 日本医薬情報センター 業務部 宛

(Fax : 03-5466-1814)

「平成 14 年度 JAPIC ユーザ会」参加申込書

ご希望の参加日にレ印を付けてください。

5 月 28 日 (東京)

6 月 6 日 (大阪)

会社名			
参加者	氏名・所属 何名でも結構です		懇親会参加の有無 参加、不参加×
住所	〒		
Tel		Fax	

1 社 (1 機関) 何名でもご出席いただけます。

新役員・評議員等のご紹介

平成 14 年 4 月 1 日現在の役員・評議員等は次のとおりです。

(任期：平成 14 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日)

会 長 上 田 慶 二 (東京都多摩老人医療センター名誉病院長)
副会長 菅 谷 忍 (社団法人日本医師会常任理事)
永 山 治 (日本製薬工業協会会長)

理事長 首 藤 紘 一
常務理事 松 本 和 男

理 事 秋 山 孝 二 (株式会社スズケン代表取締役副社長)
塩 野 元 三 (塩野義製薬株式会社代表取締役社長)
汐 見 昌 夫 (小野薬品工業株式会社医薬情報部長)
鈴 木 正 (第一製薬株式会社代表取締役会長)
高 岡 庸 児 (エーザイ株式会社取締役常務執行役員薬事・医薬情報担当)
高 藤 鉄 雄 (三共株式会社代表取締役社長)
田 中 登志於 (田辺製薬株式会社代表取締役社長)
渡守武 健 (大日本製薬株式会社代表取締役会長)
初 山 一 登 (日本新薬株式会社代表取締役社長)
濱 中 康 彦 (武田薬品工業株式会社取締役医薬開発本部長)
樋 口 貞 夫 (藤沢薬品工業株式会社第一 P M S 部部長)
久 田 保 彦 (山之内製薬株式会社製品情報センター所長)
藤 原 讓 (独立行政法人工業所有権総合情報館理事長)
益 澤 秀 明 (元 関東通信病院脳神経外科部長)
溝 口 秀 昭 (東京女子医科大学医学部長)
山 崎 幹 夫 (東京薬科大学薬学部客員教授)

監 事 岸 本 正 裕 (日本製薬団体連合会理事長)
寺 尾 允 男 (財団法人日本公定書協会会長)
三 浦 和 彦 (日本児童教育専門学校相談役)

評議員 池 上 四 郎 (社団法人日本薬学会会頭)
岩 崎 博 充 (ファイザー製薬株式会社専務取締役・経営企画担当)
植 木 明 廣 (大阪医薬品協会理事長)
岡 安 次 郎 (鳥居薬品株式会社執行役員学術部長)
沖 村 憲 樹 (特殊法人科学技術振興事業団理事長)
折 井 孝 男 (東日本電信電話株式会社関東病院薬剤部長)

開原 成 允 (財団法人医療情報システム開発センター理事長)
北里 一 郎 (明治製菓株式会社代表取締役社長)
木 戸 脩 (日本製薬工業協会理事長)
小清水 敏昌 (順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院薬剤科長)
小 雀 浩 司 (持田製薬株式会社取締役常務執行役員)
小 林 幸 雄 (大塚製薬株式会社取締役相談役)
齊 藤 勲 (社団法人東京医薬品工業協会理事長)
全 田 浩 (社団法人日本病院薬剤師会会長)
千 田 徳 子 (社団法人日本看護協会副会長)
中 野 克 彦 (富山化学工業株式会社代表取締役社長)
中 野 恭 平 (万有製薬株式会社取締役営業本部副本部長)
中 山 耕 作 (社団法人日本病院会会長)
新 田 進 治 (日本大衆薬工業協会理事長)
林 昌 洋 (国家公務員共済組合連合会虎の門病院薬剤部長)
飯 田 晋一郎 (三菱ウェルファーマ株式会社代表取締役社長)
ピーター・レッシュャー (アベンティス ファーマ株式会社代表取締役会長兼社長)
平 田 正 (協和醗酵工業株式会社代表取締役社長)
藤 野 豊 美 (財団法人国際医学情報センター理事長)
松 村 陽 介 (旭化成株式会社専務取締役 医薬・医療カンパニー社長)
三 輪 芳 弘 (興和株式会社代表取締役社長)
村 野 敦 (住友製薬株式会社常務取締役)
脇 山 好 晴 (科研製薬株式会社代表取締役会長)

顧 問 高 木 敬次郎 (前 財団法人日本医薬情報センター会長)
高 橋 則 行 (前 財団法人日本医薬情報センター副会長)
三 宅 浩 之 (前 財団法人日本医薬情報センター理事長)

(50音順 敬称略)

(総務部 TEL. 03-5466-1811)



「JAPIC 医薬資料ガイド」2002 年版発行

医薬情報を調べる人のための「JAPIC 医薬資料ガイド」を 5 月末刊行予定です。

これは JAPIC で所蔵する逐次刊行物（2002 年 4 月現在、国内雑誌 572、外国雑誌 85）、FDA を中心とする薬事規制資料、WHO 刊行物、世界の医薬品集、薬局方、治験薬情報、医薬品の名称集、同義語集、副作用関連情報誌等の資料を収録しています。2002 年版では 39 カ国の医薬品集を 131 種、20 カ国の公定書 62 種について解説をしております。

また、JAPIC で提供している出版物、データベースの紹介、JAPIC 各種サービス料金表も掲載しました。

JAPIC 図書館資料の利用の手引書として、ライブラリアンのレファレンス業務の参考書として、また、参考図書購入のツールとして幅広い利用が可能となっております。図書館職員や医薬情報担当者の入門書として、また、医学・薬学・医療情報学を学ぶ学生の参考資料としても役立つように編集しております。

A4 判 約 200 ページ。

本ガイドは JAPIC 会員機関の業務担当者宛てに刊行次第、1 部お送りさせていただきますが、ご希望の方に**本体は無料**でご提供いたします。図書館宛に送付先、必要部数を明記して FAX：03-5466-1818 でお申し込みください。着払い宅急便でお送りします。

(図書館 TEL.03-5466-1827)

人事異動に伴う連絡先変更届けのお願い

人事異動の時節がら、JAPIC 各種サービスご利用担当者の方の異動も多いことと存じます。ご担当の方の異動や退職等がございましたら、業務部まで FAX（03-5466-1814）でお知らせ下さい。新しくご担当になられた方に各種出版物等をお送りさせていただきますので、お手数ですがよろしくお願い致します。

また下記につきましてもご変更があった場合は、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

会社名・機関名 / 部署名 / 住所 / TEL・FAX 番号 / E-mail アドレス

(業務部 TEL.03-5466-1812)

「第 90 回臨時理事会」報告

4月1日(月) 当センター3階会議室

主な議案項目は

1. 仮議長の選任
2. 会長、副会長の互選
3. 理事長、専務理事及び常務理事の選任
4. 顧問の選任

議案 1. ~ 4. まですべて承認・議決

5. 会長、理事長ならびに新任理事挨拶
6. その他

(総務部 TEL. 03-5466-1811)



新人紹介

山内美香



平成 14 年 4 月 1 日付けで日本医薬情報センターに採用となり、添付文書部門に配属となりました山内美香と申します。

平成 7 年に東京薬科大学を卒業後、平成 14 年 3 月までの 7 年間医薬品卸に勤めておりました。医薬品卸では、医療用医薬品の添付文書改訂情報や包装変更などの情報を収集・加工し、医療機関へ提供する仕事を主に行ってまいりました。日々更新されて行く情報を使って仕事を行っていて感じていたことは、氾濫している医薬品情報の中から、本当に必要とされる情報を、迅速にそして正確に利用する相手に伝える難しさでした。情報をただ提供するだけではなく、利用しやすい形に加工することも重要であるということも感じていました。

この度、日本医薬情報センターで働くことになりましたが、収集する情報の量は、前職で経験した量とは比較にならないほど膨大で、広範囲であり、また提供する方法も多岐にわたっています。この膨大な情報の中から、重要なものを見分ける目を養うとともに、今、どのような医薬品情報が求められているのか、適切な提供の方法は何であるのかということを常に考えながら業務を行ってまいりたいと思います。

何事にもマイペースでこつこつと取り組む性格で、一つのことに没頭してしまうタイプなのですが、良い意味でのこだわりを持って、仕事に励んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

津田陽子



平成 13 年 4 月 1 日付けで日本医薬情報センターに採用となりました津田陽子と申します。平成 14 年 3 月に北里大学薬学部薬学科を卒業致しました。全学部の 1 年生と一緒に講義を受ける相模原キャンパスでは色々な人と接することができ、のびのびとした 1 年間を送りました。2 年次からは薬学部みみの白金キャンパスに移り、専門色の強い講義や実習にどっぷりと浸かりました。中でも 4 年生前期に受けた医薬品情報学や薬事法規の講義は私に、医薬品の適正使用とそのため情報活用の重要性を強く意識させました。学生生活の最後は薬学部生の大半がそうだと思うれ

ますが、国家試験の勉強ばかりで桜を楽しむ間もなく、気づくとカレンダーはめくれ新しい生活が始まっていたという感じです。現在は医薬文献部門で研修をさせて頂いており、今までは見ることしかできなかった「医薬関連情報速報」が実際に作られていく現場に触

れられ、新鮮な驚きと発見の連続の日々です。英語文献を読む作業に慣れるのにはしばらく時間がかかりそうですが、慣れない作業もまた楽しく思える毎日です。そして自分の手で加工した情報が今後広く人々に届けられ目に触れるということを考えると、楽しさ以上にかかる責任の重さもまた感じずにはられません。医薬品は安全性を殊の外重視しなければならない製品であり、過失は最小限にとどめる必要があります。共同作業の素晴らしさの一つはたとえ誰かがミスをしたとしても皆でチェックを入れることによりカバーできる所ではないかと思います。しばらくは先輩方の肩をお借りするつもりで、沢山つまずきながらも学んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

平 林 洋 介



平成 14 年 4 月 1 日付けで日本医薬情報センターに採用となりました平林洋介と申します。平成 12 年 3 月に北海道医療大学薬学部を卒業し、平成 14 年 3 月に昭和大学大学院薬学研究科修士課程を修了しました。大学院では医療薬学を専攻したため、修士 1 年次は研究ではなく、病棟実習に向けた講義、ロールプレイを行い、その上で薬剤部実習、病棟実習を経験しました。この実習が、2 年次の修士論文テーマである医薬情報データベースを考える際、大変参考になりました。医療現場が望んでいるデータベースはどのようなものなのか、より深く考えることができました。作

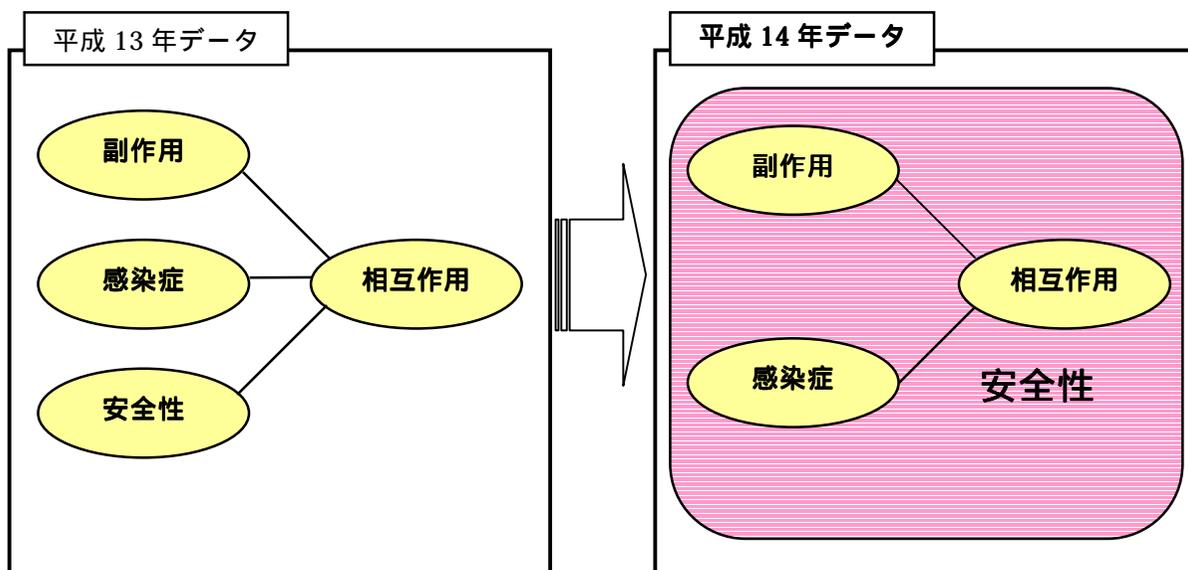
る側の自己満足ではなく、使う側の視点に立つことがいかに重要なことであるか、理解することができました。様々な資料を電子化するだけでも有用ですが、それらを編集するとさらに利用できるものとなると感じましたが、その作業は一層困難なものになるということもわかりました。

2 年次は、前述のテーマでデータベースを構築しました。構想としては医療現場で利用できるものを目指しましたが、今回は、製作期間が 1 年であるため、データベースの使いやすさを追求することとし、その表現形として、用語間で相互にリンクしている電子教科書を作成しました。まだ呼吸器系の病態と治療法、その治療に使用される医薬品の添付文書しか入力されていませんが、システム面からデータベースを考えることができました。

この 2 年間で、医薬品情報を収集、評価し提供することの難しさを知り、さらなる努力が必要だと考えております。センターの業務を 1 日でも早く覚えると同時に、医薬品情報に対する考え方を勉強したいと思っております。これからは研修でお世話になることと思ひます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

JAPICDOC 速報版、JAPICDOC、SOCIE のキーワード変更について

平成 14 年のデータ（5 月更新予定）からは、「安全性」のキーワードが示す範囲を、これまでの狭義の「安全性」から広義の「安全性」に拡大することにいたしました。つまりこれまで、医薬品による有害事象の記述のある学会・文献情報のうち、副作用・感染症・相互作用に該当する報告にはそれぞれ「副作用」・「感染症」・「相互作用」のキーワードを使用し、それ以外を「安全性」として区別しておりました。平成 14 年からは「副作用」・「感染症」・「相互作用」をすべて含めて「安全性」とすることにいたしました。したがって「安全性」のキーワードで、臨床、非臨床における副作用・感染症・相互作用を含めた広義の安全性に関する報告が、網羅的に検索できるようになります。



また、平成 13 年までの「副作用」のキーワードは、副作用報告が主題のものにのみ使用していましたが、原著については平成 14 年からは有効性が主題の報告でも、医薬品により生じた有害事象の記述があるすべての報告に、「副作用」のキーワードを使用することにいたしました。

したがって、「副作用」のキーワードで、臨床で生じた医薬品による有害事象の記述のある原著が、網羅的に検索できるようになります。

（医薬文献部門 TEL.03-5466-1822）

「ADVICE」(医薬品副作用文献情報集) 2001 [] の発行

「医薬品副作用文献情報集」(ADVICE: ADverse reaction Information Compendium for Experts) 2001 [] を5月初旬に発行致します。

2001 [] は、半期(2000年7月~12月の6ヵ月間)に入手した採択誌より、副作用の臨床報告文献、臨床で生じた副作用の記述のある原著文献、副作用総説文献を採択し、<薬効別副作用一覧編>、<抄録集編>、及び<医薬品別副作用文献索引編>の3分冊として発行しているものです。<医薬品別副作用文献索引編>は、1年分をまとめて作成しています。

なお、付録として<医薬品別副作用文献索引編>には、薬効別副作用文献数、雑誌別副作用文献採択数、器官別副作用文献数を、<抄録集編>には、副作用軽減文献リストと副作用総説文献リストの掲載を予定しておりますのでどうぞご利用下さい。

(医薬文献部門 JAPICDOC 担当 TEL.03-5466-1822)





「日本医薬品集 DB 2002 年 4 月版」発刊のお知らせ

昨年 10 月発刊の「日本医薬品集 DB 2001 年 10 月版」の第 2 回データ更新版として、「日本医薬品集 DB 2002 年 4 月版」(CD-ROM)を 4 月末に発刊いたします。

価格(税・送料別)は「日本医薬品集 DB 2001 年 10 月版」あるいは「2002 年 1 月版」をお持ちの方は 10,000 円、「医療薬日本医薬品集 2002(第 25 版)」をお持ちの方は 23,000 円、その他の方は 35,000 円となっております(税・送料別)。

< 収録内容 >

- ・ 添付文書情報関係 : 「医療薬日本医薬品集 2002」(第 25 版) + 3 月までの改訂情報
「一般薬日本医薬品集 2002-03」(第 13 版)
 - ・ 製品情報関係 : 「保険薬事典平成 14 年 4 月総合版」+ 4 月 10 日までの追加情報
 - ・ 識別コード情報関係 : 「医療用医薬品識別ハンドブック 2002」+ 3 月までの追加情報
- 上記 4 冊の書籍データを収載

(添付文書部門 日本医薬品集担当 TEL.03-5466-1825)





◀ 新着資料案内 - 平成 14 年 3 月受け入れ ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>> でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No.03-5466-1818

- 図 書 -

1. 病院感染防止マニュアル
日本環境感染学会 オイスエムアイイ 2001 68p ¥2,000
2. 第 30 回 DI のための情報基礎講座テキスト (平成 14 年 3 月 6 日 ~ 8 日)
日本医薬情報センター 2002 3 分冊
3. European pharmacopoeia 4th edition (Supplement 4.1)
Council of Europe 2001 2,417-2,613p ¥14,380
4. European pharmacopoeia 4th edition (Supplement 4.2)
Council of Europe 2002 2,615-2,886p ¥13,437
ヨーロッパ薬局方の追補版。この追補版には新テキスト、改訂テキストのリストが掲載されているので必ず追補から調べる必要がある。
5. 医薬品・化学物質 GLP 解説 2002
薬事日報社 2002 315p ¥4,800
6. The Japanese pharmacopoeia 14th edition (JPXIV)
Society of Japanese Pharmacopoeia 薬事日報社 2002 1,357p
¥52,000
日本薬局方の英文版。
7. 関東病院情報 2002 年度版 第 21 版
医事日報 2002 1,202p ¥17,000
8. 研究社新英和大辞典 第 6 版
竹林 滋 他編 研究社 2002 2,886p ¥18,000
9. 厚生労働省名鑑 2002
時評社 2002 390p ¥5,048
10. 消毒薬の使用指針 第三版
日本病院薬剤師会 編 薬事日報社 1999 350p ¥4,000

11. 薬事法・薬剤師法関係法令集 平成 14 年改訂版
薬務公報社 2002 1,278p ¥6,600

12. 薬事研究会資料 平成 14 年 3 月 18 日 第 116 回
日本医薬情報センター 薬事研究会 2001 215p

- 厚生労働省・製薬団体等資料 -

1. 医療用医薬品再評価結果 平成 13 年度（その 7）について
厚生労働省医薬局長 2002 7p
2. 新医薬品等の再審査結果 平成 13 年度（その 2）について
厚生労働省医薬局長 2002 2p
3. 薬事・食品衛生審議会薬事分科会 平成 14 年 3 月 18 日（新聞発表用資料）
厚生労働省医薬局 2001 215p

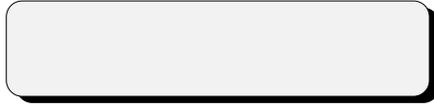
- WHO から -

1. WHO Technical Report Series
No.906 Evaluation of certain mycotoxins in food /62p/2002

- その他 -

1. 「Red Book」の update 版 April 2002 / 79p
2. 医療における標準用語・コードマスターの手引き（暫定版）2002
（財）医療情報システム開発センター標準化推進室 74p
3. 先進的情報技術活用型医療機関ネットワーク化推進事業 - 電子カルテを
中心とした地域医療情報化 - 成果発表会 講演資料
（財）医療情報システム開発センター 2002 504p





例年ならば、満開の桜と共に新年度を迎えるのが四季の通例であった 4 月ですが、今年は各地で観測史上最も早い桜の開花となった所が多く、東京でも 4 月の初旬には、はや半ば葉桜となってしまったものも多かったようです。あらためて地球温暖化など地球環境の変化を感じられる方も多いと思います。

また、4 月からいよいよ「ペイオフ」が解禁となりました。金融の世界も自己責任とグローバルスタンダード化が今後一段と加速していくように思います。そのほかスポーツでは日本プロ野球も開幕を迎え、何十年ぶりの開幕何連勝、何連敗と連日の一喜一憂、まさに球春到来という感じではないでしょうか。

さて、JAPIC も 4 月から新年度を迎えましたが、本年度は 2 年に一度の役員改選の年でもあります。4 月 1 日(月)には、理事会が開催され、新役員が決まりました。会長、理事長が同時に交代し、約 10 年ぶりに新体制によるスタートとなりました。新会長には上田慶二(67 歳)、新理事長に首藤紘一(62 歳)が就任いたしました。

上田会長は東京都多摩老人医療センター名誉病院長であり、医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構顧問も兼任しております。首藤理事長は前国立医薬品食品衛生研究所長であり、薬事食品衛生審議会委員も兼任しております。会長は 6 代目、理事長は 3 代目となります。

新会長、新理事長のもと職員一同気持ちを新たにし業務に取り組む所存です。JAPIC はこの 12 月で創立 30 周年を迎えますが、平成 14 年度はまさにエポックメイキングな年となります。

また、4 月から新入職員 3 名が新たに加わりました。とりあえず総務部に所属、各種研修を経て部門に配属となります。将来を担う新戦力として大いに期待したいものです。プロフィールは別掲新人紹介をご覧ください。

本年度の事業計画書を会員の業務担当者の方にお送り致しました。前年度に第一期中期 3 力年計画(平成 14 年～16 年)を策定し、本年度はその第 1 年目に当ります。

“ユーザーに対して信頼される情報、使いやすい情報を作成、提供して、存在価値のある JAPIC の発展に繋いでいく”ことを目標に各種重点化事業や新規事業を遂行していく所存ですので本年度もよろしくごお願い申し上げます。なお、事業計画につきましては、5 月 28 日(火)に東京で、6 月 6 日(木)に大阪でユーザー会を開催し、ご説明させていただきます。業務担当者の方、各種サービスをご利用の方は是非ご出席いただきますようご案内申し上げます。

(T.H)



- ・平成14年4月1日から4月31日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合は当センター業務部（TEL.03 - 5466 - 1812）にお問い合わせ下さい。

情 報 提 供 一 覧	発行日等
<出版物等>	
1. 「医薬関連情報」4月号	4月26日
2. 「Regulations View」No.80	4月26日
3. 「CONTENTS」No.1497～1500	毎週月曜日
4. 「国内医薬品添付文書情報」No.193	4月19日
5. 「日本医薬文献抄録集」01シリーズ版（11）	4月11日
6. 「医薬品副作用文献速報」5月号	4月末予定
7. 「JAPIC NEWS」No.217	4月26日
8. 「日本医薬品集DB」2002年4月版	4月末予定
<速報サービス>	
1. 「各国副作用関連情報誌のコンテンツ速報FAXサービス」	随 時
2. 「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.333～336	毎 週
3. 「JAPIC - Q（医薬文献・学会情報速報サービス）」	毎 週
4. 「JAPIC Daily Mail（外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス）」No.221～241	毎 日

<p style="text-align: center;">データベース一覧</p> <p style="text-align: center;">1～7のデータベースのメンテナンス状況はJIPホームページ (http://Infostream.jip.co.jp/)でもご覧いただけます。</p>	更新日
<JIP e-InfoStreamから提供>	
1. 「JAPICDOC速報版（日本医薬文献抄録速報版）」	4月 9日
2. 「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	4月 9日
3. 「ADVISE（医薬品副作用文献情報）」	4月 9日
4. 「MMPLAN（学会開催予定）」	4月 5日
5. 「SOCIE（医薬関連学会演題情報）」	4月 9日
6. 「NewPINS（新添付文書情報）」（月2回更新）	4月 1日 4月18日
7. 「SHOUNIN（承認品目情報）」	4月18日
<JST JOISから提供>	
「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	4月中旬

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター業務部（TEL.03 - 5466 - 1812）を通じて許諾を得てください。

===== 財団法人 日本医薬情報センター
 禁無断転載 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
 JAPIC NEWS 1984.4.27 No.1 発行 長井記念館 3階
 毎月1回(最終金曜日)発行 TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814